

新潟県立長岡高等学校長  
鈴木勇二

寒さやインフルエンザの流行により、今回もリモートでの講話になりました。皆さんを目の前にして直接話したかったのですが残念です。画面越しですが、しっかりと聞いてください。3点、お話しします。

## 1 2学期の振り返り

2学期の振り返りをしましょう。これから紹介することを覚えているでしょうか。

- ・ 8月には1年理数科の生徒は長岡技科大で研究施設を見たり、大学院生と研究をしました。SSHの指定を受けている本校の、特色ある行事の一つです。
- ・ 9月2日、3日は和同祭。各部活動、クラス共に協力して作品展示や催しを行いました。4年ぶりの一般公開とあって、保護者や近隣の方々を中心に、2日間で3,000人の方が来校されました。
- ・ 中間考査後の10月、2年生はキャリアデザインツアーに出かけました。文系、理系、理数科に分かれて、それぞれの進路に合わせて大学見学や企業見学、OBとの座談会などを行いました。
- ・ 部活動の地区大会、県大会も行われました。語学部は7年連続で全国英語ディベート大会に出場でした。吹奏楽部や演劇部も県大会を勝ち抜き、ブロック大会出場を決めました。
- ・ 11月1日には、創立記念講演会兼SSH講演会があり、本校卒業生で産婦人科医、そして「国境なき医師団」の一員である鈴木美奈さんから「未来のために今できること」という演題で講演をいただきました。
- ・ 11月から12月にかけての期末考査後には、第二部会もありましたね。各クラス共に、試合に出る人・応援する人に分かれて団結していました。

私が思いつくことを上げてもこれくらいになります。皆さん一人一人にとってはもっといろいろなことがあったでしょうし、それぞれに充実した高校生活の1ページになったことと思います。

さて、いよいよ2学期が終わります。あと1週間ほどで今年も終わりになりますし、ちょうど良い機会です。2学期だけでなく、この1年を振り返ってみてください。そして、今後の自分について考え、自分は何をすべきか、次の1年の明確な目標を持ってください。

## 2 本の紹介

2つ目は本の紹介です。今回皆さんに紹介する本はこれです。さだまさしさんの『風に立つライオン』です。さだまさしさんは知っていますか。本も書きますが、本職は歌手です。皆さんのお父さん、お母さんはよく知っていると思います。

さださんは、長崎大学熱帯医学研究所の医師としてケニアに派遣され現地医療に従事した柴田紘一郎のエピソードに感銘を受け、1987年に『風に立つライオン』という曲を作りました。今回紹介する、同名のこの小説は、柴田医師の実話をもとに書かれたフィクション小説です。2014年に発刊されましたが、すぐに映画化されたので、見たことがある人もいられるかもしれませんね。あらすじは以下の通りです。

1987年、医師である島田航一郎は、恋人を日本に残し、ケニアの熱帯医学研究所に赴任します。恋人の女性は、航一郎と一緒に来たかったのですが、様々な事情から、長崎の離島で地域医療に従事することを選択しました。

ケニアに渡った航一郎は、設備が十分に整わない診療所に自ら希望して行き、途切れることなく診療所に来る患者達を診察します。もちろん彼1人でやるわけではなく、周りの人たちと力を合わせて、また、周りの人たちに支えられながらです。先ほどの2学期の振り返りにもあったとおり、11月の創立記念講演会で鈴木美奈さんが「国境なき医師団」の話をしてくれました。私は講演会の前にこの本を読んでいたのので、鈴木さんの話と航一郎の姿とが重なるように感じました。

「熱い心」で仕事に従事している人の姿は、周りの人に影響を与えます。「自分もそうなりたい」ではなく「自分もそうなる」という、強い気持ちを与えてくれるものなんだと、この本から教えられた気がします。小説に出てくる、大けがをして診療所に送られてきた少年兵のンドゥングもその1人です。はじめは心を閉ざしていた彼も、航一郎の姿や、航一郎がくれた言葉に心を開き、医師を目指します。といっても、日本のように教育の環境が整っている国ではないのでそう簡単なことではありません。でも、その困難を乗り越えて医師となり、日本に来ます。そして日本で、ンドゥングは、航一郎が彼にしてくれたように日本の患者と接します。気持ちが、次から次へと受け継がれていきます。

キーワードは「民族紛争」「オッケー、大丈夫」「ガンバレ」「東日本大震災」「笑う避難所」そして「受け継がれる心」といったところでしょうか。手紙形式で書かれていて、小説としては異色な感じもします。人間の「温かい心」を描いた小説であると私は感じました。医師を目指す人だけでなく、多くの皆さんに読んで欲しい一冊です。

今はこの本を読んでいます。垣根良介さんが書いた、今年7月の直木賞受賞作の『極楽征夷大將軍』です。赤い帯にある「やる気なし、使命感なし、執着なし」という言葉に惹かれて手に取ってみました。足利尊氏の弟を中心として、室町時代の始まりを描いた小説

で、当時の政治の混乱ぶりが窺える一冊です。高校時代に日本史が苦手だった私でも楽しく読みすすめています。年明けには本を返却しますので、日本史に関心がある人は読んでみて欲しいと思います。

### 3 「いじめ」について

3つ目は「いじめ」についてです。今年度、長岡高校では、昨年以上に丁寧に対応しています。実際、本校においても、認知件数は昨年以上に多くなっています。

ところで、皆さんはいじめの定義を正しく理解しているでしょうか。今から10年前に制定されたいじめ対策推進法第2条で次のように定義されています。

「この法律において『いじめ』とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」

法律の表現というのはわかりにくいですね。要約すると

「『いじめ』とは、生徒が生徒に対して行う行為で、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。」

となります。いじめの定義が被害者の側に立ったものになっていることに気づいて欲しいです。相手に苦痛を感じさせたらそれは「いじめ」ということとなります。

同じ行為、言葉でも、苦痛を感じる人もいれば感じない人もいます。気が付かないところで、相手にいやな思いをさせているということもあるでしょう。本校においては、そういった事例が多くを占めています。皆さんには、こうしたら、こう言ったら、この人はどう感じるだろうということを考えて行動して欲しいと思います。そして、「頑張れ」という励ましや、「ありがとう」という感謝を伝える言葉をたくさん使って欲しいと思います。

### 4 おわりに

以上3つのお話しをしました。

ところで、先週金曜日の12月22日は冬至。1年で一番日が短い日でした。これから本格的な雪の季節となりますが、一日一日と日が長くなっていくと思うと、少し救われる気がします。

いよいよ明日から二週間の冬休みです。宿題や部活動に忙しいかもしれませんが、新型コロナとインフルエンザの感染症対策を徹底しつつ、年末年始を楽しんでください。3年生は年が明けたらすぐに共通テストですね。残り少ないからと気を緩めないで、テスト当日まで、最後の最後まで頑張りましょう。体調には十分に気をつけてください。

以上で講話を終わります。